

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成20年9月4日(2008.9.4)

【公表番号】特表2008-512094(P2008-512094A)

【公表日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【年通号数】公開・登録公報2008-016

【出願番号】特願2007-530430(P2007-530430)

【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/68 Z N A A

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 9/10

G 0 1 N 33/53 D

C 1 2 Q 1/02

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月30日(2008.5.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下の段階を含む、被験体におけるアテローム性動脈硬化症を評価する、またはアテローム性動脈硬化症の進行を決定する方法：

被験体からの単球を含む生物学的試料におけるFOS、DUSP1、またはFOSおよびDUSP1の双方の発現をアッセイする段階であって；

対照と比較した単球におけるFOS、DUSP1、またはFOSおよびDUSP1の双方の発現の増加により、被験体におけるアテローム性動脈硬化症が評価される段階。

【請求項2】

アテローム性動脈硬化症を評価する段階が、被験体の予後を決定する段階を含み、方法が被験体におけるアテローム性動脈硬化症の重症度を決定する、請求項1記載の方法。

【請求項3】

対照が、アテローム性動脈硬化症を有しないことが公知である1または複数の被験体における発現レベルの標準値である、請求項1記載の方法。

【請求項4】

試料が、末梢血単球、血液を含む、請求項1記載の方法。

【請求項5】

単球がアテローム性動脈硬化症病変に由来する、請求項1記載の方法。

【請求項6】

FOS、DUSP1、またはFOSおよびDUSP1の双方の発現をアッセイする段階が、FOS mRNA、DUSP1 mRNA、またはFOSおよびDUSP1 mRNAの双方の有無を評価する段階を含む、請求項1記載の方法。

【請求項 7】

FOS mRNA、DUSP1 mRNA、またはFOSおよびDUSP1 mRNAの双方の有無をアッセイする段階が、ポリメラーゼ連鎖反応またはハイブリダイゼーション反応を含む、請求項6記載の方法。

【請求項 8】

FOS mRNA、DUSP1 mRNA、またはFOSおよびDUSP1 mRNAの双方の有無をアッセイする段階が、逆転写酵素ポリメラーゼ連鎖反応(RT-PCR)を含む、請求項7記載の方法。

【請求項 9】

FOS、DUSP1、またはFOSおよびDUSP1の双方の発現をアッセイする段階が、FOSタンパク質、DUSP1タンパク質、またはFOSおよびDUSP1タンパク質の双方の有無を評価する段階を含む、請求項1記載の方法。

【請求項 10】

FOS、DUSP1、またはFOSおよびDUSP1タンパク質の双方の有無をアッセイする段階が、FOSタンパク質に特異的に結合する抗体、DUSP1タンパク質に特異的に結合する抗体、またはFOSタンパク質に結合する抗体およびDUSP1タンパク質に結合する抗体に、単球またはその成分を接触させる段階を含む、請求項9記載の方法。

【請求項 11】

FOSタンパク質に特異的に結合する抗体、DUSP1タンパク質に特異的に結合する抗体、またはFOSタンパク質に結合する抗体およびDUSP1タンパク質に結合する抗体が直接標識される、請求項10記載の方法。

【請求項 12】

標識が放射性マーカー、蛍光マーカー、酵素、または金属である、請求項11記載の方法。

【請求項 13】

試料が末梢血、血清、または血漿である、請求項1記載の方法。

【請求項 14】

以下の段階を含む、薬剤が被験体におけるアテローム性動脈硬化症の処置に有効であるか否かを決定する方法：

薬剤の有効量を接触させた単球におけるFOS、DUSP1、またはFOSおよびDUSP1の双方の発現をアッセイする段階であって、試料中の単球におけるFOS、DUSP1、またはFOSおよびDUSP1の双方の発現の減少により、薬剤がアテローム性動脈硬化症の処置に有効であることが示される段階。

【請求項 15】

FOS、DUSP1、またはFOSおよびDUSP1の双方の発現を対照と比較する段階をさらに含む、請求項14記載の方法。

【請求項 16】

単球がインビボである、請求項14記載の方法。

【請求項 17】

単球がインビトロである、請求項14記載の方法。

【請求項 18】

単球が不死化細胞株に由来する、請求項17記載の方法。

【請求項 19】

単球がアテローム性動脈硬化症を有する被験体に由来する、請求項14記載の方法。

【請求項 20】

単球が末梢血単球である、請求項19記載の方法。

【請求項 21】

単球がアテローム性動脈硬化症病変に由来する、請求項19記載の方法。

【請求項 2 2】

FOS、DUSP1、またはFOSおよびDUSP1の双方の発現をアッセイする段階が、FOS mRNA、DUSP1 mRNA、またはFOSおよびDUSP1 mRNAの双方の有無を評価する段階を含む、請求項14記載の方法。

【請求項 2 3】

FOS mRNA、DUSP1 mRNA、またはFOSおよびDUSP1 mRNAの双方の有無をアッセイする段階が、ポリメラーゼ連鎖反応またはハイブリダイゼーションを含む、請求項22記載の方法。

【請求項 2 4】

FOS mRNA、DUSP1 mRNA、またはFOSおよびDUSP1 mRNAの双方の有無をアッセイする段階が、逆転写酵素ポリメラーゼ連鎖反応(RT-PCR)を含む、請求項22記載の方法。

【請求項 2 5】

FOS、DUSP1、またはFOSおよびDUSP1の双方の発現をアッセイする段階が、FOSタンパク質、DUSP1タンパク質、またはFOSおよびDUSP1タンパク質の双方の有無を評価する段階を含む、請求項14記載の方法。

【請求項 2 6】

FOSタンパク質、DUSP1タンパク質、またはFOSタンパク質およびDUSP1タンパク質の双方の有無をアッセイする段階が、FOSに特異的に結合する抗体、DUSP1タンパク質に特異的に結合する抗体、またはFOSタンパク質に結合する抗体およびDUSP1タンパク質に結合する抗体に、単球またはその成分を接触させる段階を含む、請求項25記載の方法。

【請求項 2 7】

FOSタンパク質に特異的に結合する抗体、DUSP1タンパク質に特異的に結合する抗体、またはFOSタンパク質に結合する抗体およびDUSP1タンパク質に結合する抗体が直接標識される、請求項25記載の方法。

【請求項 2 8】

標識が放射性マーカー、蛍光マーカー、酵素、または金属である、請求項27記載の方法。

【請求項 2 9】

FOSタンパク質、DUSP1タンパク質、またはFOSおよびDUSP1タンパク質の双方の発現を評価する段階が質量分析を含む、請求項9記載の方法。

【請求項 3 0】

FOSタンパク質、DUSP1タンパク質、またはFOSおよびDUSP1タンパク質の双方の発現を評価する段階が質量分析を含む、請求項25記載の方法。